

令和元年度第1回砺波市行政改革市民会議議録（要旨）

- 1 **開催日** 令和元年10月7日（月） 午前10時～11時30分
- 2 **場所** 砺波市役所 本館3階 小ホール
- 3 **出席者** <市民会議委員 13名>
飯田委員、井上委員、今井委員、上田委員、島田委員、嶋田委員、武田委員、千々石委員、中村委員、野村委員、原野委員、藤井委員、本江委員
<市当局・事務局 18名>
夏野市長、齊藤副市長、山本教育長、今井企画総務部長、黒河福祉市民部長、加藤商工農林部長、喜田建設水道部長、愛場砺波総合病院事務局長、畑教育委員会事務局長、川島庄川支所長、坪田企画調整課長、構財政課長、堀池総務課長、二俣総務課行政係長、河合財政課財政係長、嶋田財政課公共施設総合管理係長、久保総務課行政係主任、高野総務課行政係主任

4 説明及び協議内容

- (1) 砺波市行政改革市民会議の趣旨について説明を行った。
- (2) 会長に中村委員、副会長に井上委員を互選した。
- (3) 行政改革推進体制について説明を行った。
- (4) 行政改革報告書、行政改革推進計画及び提案型事業評価対象事業の取組状況について説明を行った。
- (5) 令和元年度提案型事業評価・職員提案について説明を行った。
- (6) 砺波市補助金等交付基準（案）について説明を行った。
- (7) 砺波市公共施設再編計画の素案について説明を行った。
- (8) (3)～(7)の説明を受けて、意見交換を行った。

5 意見・協議の概要

- (1) **行政改革推進体制に関する意見・質問**
特にご意見なし
- (2) **行政改革報告書、行政改革推進計画及び提案型事業評価対象事業の取組状況に関する意見・質問**

ア 「提案型事業評価対象事業の達成状況」について

【会長】

資料5の提案型事業評価対象事業における達成状況については、例えば年度末などいつかの時点でとりまとめて発表するのか。

【市】

達成状況については、昨年度の市民会議の折に、平成28年度から実施していた22事業のうち、半数の事業が達成されたことをご報告した。また、未達のものに

については、引き続き取り組んでいくものであり、その取組状況を今後の市民会議においてご報告する予定である。

なお、これまで対象事業として掲載していた事業のうち、市民会議において達成したものとして報告・公表した事業については、次回の資料から省略し、未達のものについて重点を置いて進捗管理してまいりたい。

(3) 令和元年度提案型事業評価・職員提案に関する意見・質問

ア 「令和元年度の提案型事業評価」について

【会 長】

一番目の「砺波市花と緑と文化の財団に係る決算認定事務の移管」については、庁内の事務改善ということで、引き続き取り組んでいただければと思う。また、他にもこのような事案があれば同様に取り組んでいただければと思う。

二番目の「ゆずります・もとめます事業の廃止」については、マーケットの変化ということで、民間で十分にできるものがあれば民間で取り組んでもらうということで進めていただければと思う。

三番目、四番目の取組については、集約化ということである。今まで別々に行われてきたという点について、それなりの理由と経緯があったであろうが、集約化していくことによって、より質の高い内容のものとなる場合は、経費の面でも、提供する内容の面でも両方向上が図れるのではないかと思う。

(4) 砺波市補助金等交付基準（案）に関する意見・質問

ア 「団体運営補助と事業費補助の違い」について

【会 長】

団体運営補助と事業費補助の違いについて説明願いたい。

【市】

団体運営補助は、団体を運営するために必要となる補助のことで、団体に対する全体的な補助であり、一方、事業費補助は、その団体が行っている事業に対する補助のことである。市としては、事業に対する補助に切り替えていきたい。

イ 「補助金の総額や件数」について

【委 員】

現在、市で行っている補助金の総額や件数についてお聞かせ願いたい。

【市】

平成30年度の執行分であるが、総額50億9千4百万円となっている。(件数は728件。) 資料7別添2に詳細を掲載している。

【会 長】

金額をとってみても件数をとってみても決して少なくはない。

【委 員】

補助金が50億円も出ていると聞いて驚いたが、行政のほうでよく考えていただいた上で、有効に活用していただければ良いと思う。

ウ 「社会福祉関係の補助金」について

【会 長】

社会福祉関係の観点からご意見はあるか。

【委 員】

現在、私ども社会福祉協議会の内部で補助金について、行政とも連絡をとりながら検討を行っているところである。

【会 長】

個別具体的な部分になると時間をかけて検討していく必要があるかと思う。

エ 「商工関係の補助金」について

【会 長】

商工関係の観点からご意見はあるか。

【委 員】

小規模の事業所や個人事業者は厳しい状況であるから、そのような補助はこれからも継続をお願いしたい。

オ 「補助金の交付期間」について

【委 員】

交付期間について、「同一団体への補助金交付は原則として3年を限度」ということであるが、3年後はどうなるのか。同じものを申請したらどうなるのか。同じことを繰り返すことによって向上することもあると思われる。

【市】

一つの事業が定着するには概ね3年かかるであろうという考えから、3年という期間を設定させていただいている。ただし、交付基準（案）には「原則として」と文言が付けてあり、各事業には個別の事情があることから、その点については担当課と関係団体において今後協議させていただくこととなる。

【会 長】

市の継続的なフォローであったとしても、3年を区切りとして一度リセットし、本当に必要なか確認することは必要ではないか。

(5) 砺波市公共施設再編計画の素案に関する意見・質問

ア 「説明会の開催」について

【会 長】

P T A関係の観点からご意見はあるか。

【委 員】

先週、公共施設の再編関係で、砺波市P T Aの理事会に副市長はじめ各担当課の方々にお越しいただき、説明をいただいた。予定の時間を超えるほど非常に多くの意見交換ができた。その中で感じたことは、やはり説明を聞かなければ、また意見交換をしなければわからないこと、理解できないことが多かったということである。引き続き、説明会や座談会などの場をつくっていただきたいと思います。

また、市民説明会では「お年寄りが多い」という話もある。我々のような若い世代の興味が薄いというのも問題かもしれないが、若い世代が足を運ぶよう、PTA など若い世代が集まる団体等への説明もお願いしたいと思う。

【委員】

説明会へ足を運んでいただけない、興味がないという話は、女性部の活動でも同じであり、なかなか参加していただけていないが、今日、情報発信が発達したことによって、何でも情報が入ってきて、そこから皆さんは情報を得られているのではないかと思うことがある。

【会長】

青年会議所関係の観点からご意見はあるか。

【委員】

以前、南砺市のほうで高校再編のときに、再編の方向性が決まった後に、市民の方々から「知らなかった」とか「こんなことならもっと意見を出しておけば良かった」とかといった声を聞いた。市民一人ひとりが説明会のことや再編のことについて認識を持っていることが望ましいのだが、なかなか難しい。

そこで、我々のような青年団体とか各種団体にも市から説明をしていただければ、我々も認知でき、会員にしっかりとお伝えすることができると思う。

イ 「参加者」について

【委員】

参加者数はどのようなものか。また、どのような方が参加されているか、お分かりになればお聞かせ願いたい。

【市】

4会場における参加者数は、450人ほどであった。参加された方については、どちらかと言うと、地域の代表の方が多かったような印象である。

【委員】

今後は、時間帯や曜日を変えるなどしてより多くの方々が参加できるようにしていただければと思う。

ウ 「今後の展開」について

【委員】

未来に負担は残してはいけないという思いから、総論は賛成が多いと思うが、今後の展開として、どうしても各論になると、自分たちの周りの施設は廃止されたくない思いから厳しい意見が出てくると思う。引き続き、しっかりと説明に努めていただきたい。

【委員】

いきなり施設の廃止を発表することなどが無いよう、今後も十分な説明をお願いしたい。

エ 「説明する上で気を付けること」について

【委員】

資料8別添1の「1 背景の(3) 財政状況」のうち、1年当たりの建物更新費用の試算において「5.4億円不足」とあるが、「毎年5億4千万円足りない」というこの言葉だけが一人歩きしないよう、市は説明する際に十分気を付けていただきたいと思う。

また、市民の声を聴いて進めていっていただければと思う。

【会長】

市におかれては説明で誤解を生まないようご注意ください。

オ その他

【委員】

施設の廃止や再編というと暗いニュースに聞こえるが、建設中の新図書館の屋根ができてきている様子を見て、明るい話題もあるし、まだまだ砺波市は前向きに行けると思った。

(6) 意見交換における回答(市長)

ア 「団体運営補助」について

市としては、できるだけ事業費補助にして、活動に対して補助していきたいと考えているが、団体運営補助が全部いけないのかということもそうとも言い切れなく、場合によっては、その団体があることによって色々な面で動いていることもある。

ただ、事業に補助をしているのにその補助裏の分にも補助をしているのかという点について整理していく必要がある。

イ 「補助金の交付期間」について

3年経ったら必ず全部補助を打ち切るというわけではなくて、会長もおっしゃっていたが、3年に一度レビューをしていこうということであり、漫然と補助し続けるのではなく、レビューをして、必要なものは残したり改善したりすることを考えている。

ウ 「公共施設再編の時期」について

砺波市公共施設再編計画の素案が報道されたときに、一部の記事では施設がすぐなくなるような印象のものがあつた。事案の中身を読めばそうでもないのだが、見出しがどうしてもセンセーショナルなものになることから、そういった点についても説明には注意していきたい。

なお、実施時期は、長期のもので令和27年度。中期のものでも令和17年度、今年はまだ令和元年であることから、まだ時間はある。その間で、しっかりと取り組んでまいりたいと考えている。

エ 「公共施設再編の説明会」について

多くの委員から説明会の開催に関するご意見をいただいたが、説明会については、過日4つの中学校区で行ったものはいわば表紙みたいなもので、この表紙があって、これからが中身であり、現在各地区や各団体に赴いて説明会を開催し、その中で精力的なご意見やご発言をいただいております、それが本当の中身になってくると考えている。

過日4つの中学校区で行った説明会には多くの方々がお越しになられたが、その表紙だけみて終わりというのではなく、これからが本番だと思っているし、すでに始まっているところもある。先日のPTAの会合もそうで、各地区でも具体的に、「あの施設はどうか」や「実際にどういうものがふさわしいのか」といったご発言が出てきている。

説明会については、地区や団体から説明をお聞きになられたいというご要望があれば赴きたいと思っているし、担当している課長が赴くので具体のお話しもできると思う。

オ 「公共施設再編に関する情報共有」について

急に施設を廃止するということがないようにというご意見があった。

実は、以前、幼稚園の統合に向けた話し合いが行われた際、市のほうでは事前に説明を尽くしたつもりであったが、地元のほうでは児童数が減少していることについて十分な認識がなかった。一つの学年に一桁、5人以下になっているということがわかっていらっしやらなかった。事前の十分な情報提供、情報共有に努めなければならないと考えている。

カ 「公共施設再編における基本的な考え方」について

色々な施設は、あったほうがいい。あったほうがいいけれど、「あったほうがいい」という考え方はやめていきたい。「ないと困る」という施設を残して、それを充実させていきたいと考えているので、その点を踏まえて、ご意見をいただければと思う。

再編というのは、廃止したり解体したりしてそれで終わり、ということではない。

その次のステップに行けるための原資になる。尻すぼみになることなく、次を見据えたようなかたちで進めてまいりたい。